

令和6年秋季特別展
鉄の名工

令和6年秋季特別展

越前 明珍

A Master of Kurogane
Echizen Myochin

謎多き、鉄の芸術

10月19日(土)～12月1日(日)

■観覧料 一般800円・学生600円

■開館時間 10月19日～11月5日(午前9時～午後7時)

11月6日～12月1日(午前9時～午後5時)

※中学生以下、70歳以上、障がい者とその介助者は無料。
※20名以上の団体は2割引 ※入館は閉館の30分前まで

福井市立郷土歴史博物館

〒910-0004 福井市宝永3-12-1 TEL.0776(21)0489 ✉ kyoudo@city.fukui.lg.jp

■共催 福井新聞社 ■特別協力(独法)国立文化財機構文化財活用センター・東京国立博物館

■後援 NHK福井放送局・FBC・福井テレビ・FM福井・福井ケーブルテレビ・さかいケーブルテレビ・福井街角放送

※令和6年度国立博物館収蔵品貸与促進事業対象事業

福井藩主越前松平家のお抱え金工「越前明珍」
として知られる明珍吉久。代々小左衛門吉久
名乗り、甲冑・自在置物・鉄鑄など、鍛鉄とその加工
技術を巧みに用いた名作を遺しています。

一方でその出自は判然とせず、鑄以外では在銘
の作品も少ないため、実態は謎に包まれています。

越前明珍の名品筆頭にあげられる「魚鱗具足」
(越前松平家伝来)も、その独創性ゆえに技術系譜
を追うことが困難な「謎多き名品」です。

本展では、明珍を中心とする越前の鍛冶の作品
の数々、さらに各地に伝存する魚鱗札を用いた「魚
鱗の具足」、全国の明珍派はじめ名工が手がけた
「自在置物」などを一堂に集め、江戸時代の金属
加工技術の粋と、その中で確かな位置を占める
越前明珍の軌跡を追います。

ギャラリートーク

各回定員20名

担当学芸員による展示解説

とき: 会期中の毎週日曜日 14:00~14:40
ところ: 郷土歴史博物館 2階 企画展示室
※申込不要、展示室入場には観覧料が必要です

見どころ講座

当日先着60名

明珍吉久と魚鱗具足・自在置物

とき: 10/26(土) 14:00~15:00
ところ: 郷土歴史博物館 2階 講堂
参加費: 100円 ※申込不要

ワークショップ

定員20名

魚鱗具足をペーパークラフトで再現!

「魚鱗具足」のパーツの1つ「袖」を
ペーパークラフトで再現するワークショップです。

とき: 11/16(土) 14:00~15:30
ところ: 郷土歴史博物館 2階 講堂
参加費: 200円 ※要申込(詳細はホームページにて)



福井市立郷土歴史博物館

福井市宝永3-12-1 福井市 郷土

TEL.0776-21-0489 FAX.0776-21-1489

E-mail:kyoudo@city.fukui.lg.jp

https://www.history.museum.city.fukui.fukui.jp



謎多き魚鱗の具足

魚の鱗のようなパーツ「魚鱗札」を
使って作られた独特のデザインの
「魚鱗の具足」を詳しく紹介。



魚鱗胴置具足(真田宝物館所蔵)▲
魚鱗具足(越葵文庫 当館保管)▶

明珍派と鉄の芸術 「自在置物」

戦がなくなった平和な時代に、
本来戦いの道具である
甲冑づくりを生業としていた
明珍派の甲冑師たちが生み出した
精巧な鉄の芸術「自在置物」の
さまざまな名品を一挙に紹介。



▲自在蝶置物(宗義作 清水三年坂美術館所蔵)
自在蠟置物(無銘 大倉集古館所蔵)▲

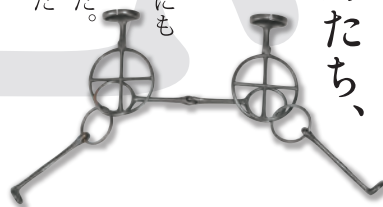


自在龍置物▶
(明珍宗察作 東京国立博物館所蔵
Image: TNM Image Archives)

▲自在龍置物
(伝明珍吉久作 越葵文庫 当館保管)

越前の甲冑師たち、 その軌跡

福井の甲冑師たちは
甲冑や「自在置物」以外にも
「用の美」をたたえた
様々な逸品を創り出した。
たくましく時代を生きた
福井のものづくりの
先人たちの精華を紹介。



▲舞鶴図透鑄(明珍吉久作 個人蔵)
▲巻(銘 越前住明珍吉嗣作 個人蔵)

